

《眼科臨床エキスパート》 知っておきたい屈折矯正手術

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信, 天野史郎 シリーズ編集
前田直之, 天野史郎 編

《眼科臨床エキスパート》シリーズの一冊として発刊された前田直之先生, 天野史郎先生編集の『知っておきたい屈折矯正手術』は, 現代の屈折矯正手術の最先端が詳しく解説された大変勉強になる本である。

一般, LASIK に関して消費者庁より非科学的なネガティブな報道がなされ, 現在, わが国においては屈折矯正手術に関する正しい理解が得られていないことに大変危惧を感じている。欧米では屈折矯正手術が眼科診療の 25% 以上の重要度を持っており, 患者のニーズに応え満足度の高い診療を提供するためには屈折矯正手術は欠かせない分野である。この本は, 屈折矯正手術の重要性から実践までが丁寧に解説された素晴らしいテキストブックである。

本の構成だが, まず第 1 章が総説から始まり, 第 2 章に角膜屈折矯正手術についてエキシマレーザーによる LASIK, そして最近実用化されたフェムト秒レーザーによる FLEX や SMILE, そして従来からの角膜切開術や角膜形成術についても詳しく述べられている。さらに, 角膜内リングや老視用角膜インレイなど, まだ導入されたばかりの新しい技術についてもしっかりと解説されており, これほどアップデートな教科書は今他に例がないであろう。

第 3 章では, 有水晶体眼内レンズについて, 後房型, 虹彩支持型, 隅角支持型と全てのレンズをカバーしており, それぞれの効果と合併症についてもしっかりと網羅している。

第 4 章としてプレミアム白内障手術を取り上げており, トーリック眼内レンズ, 多焦点眼内レンズについて現在のアップデートが良く書かれている。また, 今後新しい技術として普及していくであろうフェムト秒レーザーによる白内障手術についても詳しく述べられているのが興味深い。

第 5 章では, 屈折矯正手術後の眼鏡とコンタクトレンズの処方について書かれている。通常の屈折矯正手術の教科書ではあまり触れられない分野であるが, 本書のユニークな点である。一般の開業医は屈折矯正手術を行うというより, 屈折矯正手術後の患者を診ることが多いと思われるが, そのような診療の実際において大変役立つ内容となっている。

第 6 章は, 現在注目されているオルソケラトロジーの近視進行予防についての議論が取り上げられている。現在オルソケラトロジーが単に日中の裸眼視力の実現のみならず, 近視進行の予防に寄与しているという興味深い点について詳しく書かれている。

第 7 章は, 屈折矯正手術以外での老視矯正, そして第 8 章で眼鏡およびコンタクトレンズの不満と解決法など, 屈折矯正手術ばかりでなく, 屈折矯正手術の周辺の技術や動向についても触れられているのが興味深い。

この本は白内障前後の屈折矯正の問題から, LASIK, そして最先端のフェイク IOL など, 全ての屈折矯正手術を網羅していると言える。レジデントから角膜専門医はもとより, 実地医家の先生方にとっても大変役に立つと思われる。また, 手術という名前の本であるが, オルソケラトロジーやコンタクトレンズについても屈折矯正という視点から最先端の情報を提供しており, この一冊で屈折矯正における最先端の情報を全て網羅しているといっても過言ではないほどに優れた本である。

慶大教授・眼科学 坪田一男

B5・頁 432 2014 年

定価: 本体 17,000 円+税

[ISBN978-4-260-02037-4] 医学書院刊